

分科会 「文殊の知恵」 会議記録

広域スポーツセンター

平野 古美

1 班 進行 NPO 法人ふあいぶるクラブ白鶴 川島 克夫
発表者 NPO 法人SHIRAOKA K's フットボールクラブ 田島 玲子

伊奈町	NPO 法人伊奈総合型地域スポーツクラブ	林 吉男
秩父市	ちちぶ・ふあいぶるクラブ	尾崎 二三子
さいたま市	北浦和総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ「ふれあいプレイランド」	秋山 忠一
ときがわ町	ときがわ総合スポーツクラブ「マイティー」	関口 香
深谷市	深谷スポーツクラブ	古川 国康
春日部市	NPO 法人ふあいぶるクラブ春日部	伴野 猛
白岡町	NPO 法人SHIRAOKA K's フットボールクラブ	田島 玲子

1、活動場所の確保

- ・廃校利用 NPO 法人として管理を申し出る。
良い、解決方法が見つからない。

2、指導者の確保

- ・クラブのスタッフ以外で、外部指導者を依頼する。
- ・クラブのスタッフが指導者である場合、教室等の縮小が難しい。

3、会員の確保

- ・クラブのホームページを活用して、会員の募集を行う。
- ・各市区町村の広報誌を活用して会員の募集を行う。
- ・会員の口コミで会員を確保していく。効果は大きく、重要な要素である。

4、クラブが、NPO 法人格の取得をした場合のランニングコスト

- ・税理士と契約した場合、1年間約10万円位？
(クラブの規模と、契約内容によりスライドしていくのでは)
- ・クラブ内で会計ソフト等を購入し、会計報告を行う。
- ・会計に関するランニングコストは、あまり心配するような額ではない。

5、NPO 法人のメリット

- ・NPO 法人になったほうが、公共施設の利用等色々と便利かことがある。

6、リスクマネジメント

- ・事故など発生した時の対処を、クラブ内で取り決めをしておく必要がある。
例えば「傷害保険・賠償保険」「管理マニュアル」

2班 進行	南区地域スポーツクラブ	生島 エミ子
発表者	T. A. Pいるま総合型地域スポーツクラブ	町田 典久
記録者	さいたま市中央スポーツクラブ	長谷川 恵子

さいたま市	さいたま市中央スポーツクラブ	長谷川 恵子
戸田市	芦原地区総合型地域スポーツクラブ	渡辺 研二
入間市	T. A. Pいるま総合型地域スポーツクラブ	町田 典久
鴻巣市	NPO 法人ウォーターワイズ	斎藤 勉
深谷市	深谷スポーツクラブ	松島 伸一
鴻巣市	NPO 法人鴻巣プレス総合型スポーツクラブ	千葉 晃代

- ・自己紹介
- ・本日にテーマ（各クラブの問題点について考えよう）

1、会場の確保について

- ・陸上の練習→大学のグラウンドを使用させてもらっている。
- ・公立小・中学校の施設はなかなか借りることができない。また、学校施設を借りている場合会費を集めにくい。
- ・スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブとの練習を分けて活動している。
- ・ラグビー場をクラブに提供している（クラブの施設として利用しているが、個人所有なので固定資産税等個人の負担が大きい）
- ・ラグビーは日曜日の利用なので、他の曜日はグラウンドゴルフ等ほかの競技で利用をしている。
- ・震災の影響で、プールが利用できず教室の開催ができずに困った。
- ・スポーツ教室の種目によって会場の確保の状況が違う。
- ・市の施設利用会議に参加したい。
- ・公立学校施設は、学校の状況で施設の利用が制限される。
- ・いろいろな会場で教室を開催するにで、教室で使用する道具の保管に困っている。

2、指導者の確保

- ・特定の指導者が変わると、教室やチームもバラバラになり、消滅してしまう事もある。

3、会員の集め方

- ・既存のクラブ（スポ少・地域クラブ）が多いので、新しいクラブの運営は難しい。
- ・市が主催する教室（陸上教室）を通して会員が集まる。
- ・地域に無いスポーツ種目であれば、会員が集まりやすい。
- ・高齢者や、未就学児等は昼間でないと教室に参加できないので、やはり会員確保も会場確保と大きく関わりがある。
- ・広報は、各小学校などにパンフレットなどを配布した。
- ・市区町村の広報誌、公民館だより等に募集を掲載した。

～まとめ～

各クラブいろいろな特徴があって話し合いが出来ただけでも有意義だった。問題の解決は、

難しいが少しずつ前に進んで行きたい。

3班 進行 NPO 法人かさほらいきいきスポーツ
発表者 NPO 法人かさほらいきいきスポーツ

波多野 富信
波多野 富信

川口市	きゅぼらスポーツコミュニティ	石井 邦知
桶川市	36スポーツアカデミー総合型地域スポーツクラブ	宗像 純
吉川市	なまずの里クラブ	岡田 浩光(欠席)
志木市	NPO 法人 クラブしっきーず	増田 三枝子
熊谷市	熊谷リリース☆ふあいぶるクラブ	大沢 勇
上尾市	NPO 法人彩の国さいたま総合型地域スポーツクラブ・フォルテ	渡邊 真弓

1、クラブ運営で、今難しいと感じていること

- ・ほかスポーツ団体との関わり

2、会員の確保

- ・ウェブを利用して会員の募集を行なっているが、年齢の高い人の募集にはあまり効果が期待できない。
- ・会員の募集は、各個別に訪問し知人・友人・仲間にチラシを配るなど周知をした。
- ・母体に女子サッカークラブがありその種目を中心に会員の増員を考えた。また、小学校を通じて、募集を行なった。
- ・市区町村の広報誌に年3～4回掲載をした。
- ・新聞に折り込みチラシをいれた。

3、場所の確保

- ・教室、イベントの会場を公共のスポーツ施設（グラウンド・体育館等）に限定せず、発想を変えいろいろな場所で開催することができるはずである。
- ・参加者が高齢者中心の場合、迷わないように旗を必ず立てる。
- ・太極拳を野外で行なっている。

4、その他

- ・他の団体が取り組んでいないことに取り組んでみる。
- ・クラブの運営に関わる人材が不足している。
- ・クラブで、「ステーションの旗」を用意し、事務局や活動の場所に立てることによりクラブ員のみならず、いろいろな方への周知となる。

4班 進行 リリー・アスレチック・クラブ
発表者 ふじみ野ふあいぶるクラブ

市村 孝志
山下 耕司

川口市	きゅぼらスポーツコミュニティ	竹井 宏明
桶川市	36スポーツアカデミー総合型地域スポーツクラブ	宗像 純
小鹿野町	NPO 法人ふあいぶるクラブおがのむてっぼう	黒澤 道典(欠席)
志木市	NPO 法人 クラブしっきーず	増田 康太
三郷市	ふくじゅ草総合型スポーツクラブ	山道 信之
東松山市	クラブ ラッキー	大谷 正巳
ふじみ野市	ふじみ野ふあいぶるクラブ	山下 耕司
上尾市	上尾東クラブ	田端 克雄(欠席)

1、会員の確保

- ・インターネットやポスティングにより体験教室などの参加率は上がったが、なかなか会員になる率が低い。会員の固定が課題である。
- ・会員が高齢化している。子供会員の確保に四苦八苦している。

2、クラブスタッフについて

- ・運営メンバーの高齢化が問題である。
- ・若いスタッフが不足している。
- ・会計などを担当するクラブメンバーが不足している。
- ・数人のメンバーに責任や作業が集中してしまう。
- ・活動の中心となる人の育成が急がれる。
- ・クラブで企画を立てても、運営スタッフの不足により企画が具現化されない。運営スタッフの確保していきたい。

3、場所の確保

- ・主にバレーボールと、フットボールの活動を行なっているが、市の体育館を利用出来るバレーボールは利用料金が低く抑えられるが、フットボールの活動は民間の施設を利用しているため、会場使用料が高く問題になってくる。
- ・公共施設を利用する場合、総合型地域スポーツクラブの知名度が低いため、営利団体と勘違いされてしまうことがある。

4、その他

- ・行政との関わりあい方について、各クラブ情報交換をしていくと良い。

5班 進行 NPO 法人スポーツ・サンクチュアリ・川口
 発表者 NPO 法人スポーツ・サンクチュアリ・川口

相澤 和江
 相澤 和江

ふじみ野市	ふじみ野ふあいぶるクラブ	篠島 幹昌
飯能市	飯能総合型地域スポーツクラブ	小原 良三
杉戸町	杉戸町総合型地域スポーツクラブ「すぎスポ」	緒方 英喜
桶川市	NPO 法人ユニオンスポーツクラブ	杉浦 潤
北本市	NPO 法人あさひスポーツ・文化クラブ	曾我 強
さいたま市	NPO 法人さいたまスポーツクラブ	内田 由美子

1、運営資金について

- ・ t o t o くじの、自立支援事業で助成金を活用している。
- ・ t o t o の助成金で運営している状況である。
- ・ t o t o の助成金終了後の、運営が不安である。
- ・ t o t o の助成金があと2年で終わってしまう。
- ・ t o t o の助成金で、専従のアルバイト週3日の賃金支払いをしている。
- ・スポーツクラブの水泳の受託事業は、黒字である。
- ・会費と活動内容のバランスを考えている。
- ・クラブの規模、会費会費収入、スタッフの人数のバランスを取ることが難しい。

2、場所の確保

- ・桶川河川敷または、桶川市体育館（サンアリーナ）を拠点の候補に考えている。
- ・少年サッカー教室を平日の夕方4日間（月？日？）行なっているが、継続的な活動場所がない。
- ・中学生の女子サッカーを新たに立ち上げたいが、活動場所の確保ができない。
- ・クラブの、活動拠点が確保できない。

3、指導者、スタッフについて

- ・バドミントン、新体操、テニスの指導者スタッフの強化をしたい。
- ・来年度4月からJrバレーボールクラブを発足する予定。
- ・スタッフの人材育成について悩んでいる。

4、フリートーク

- ・謝金の設定について→レスリング 1,000 円／月・サッカー3,500／週 2（低学年）
サッカー4,500／週 2（高学年）
- ・月会費→種目によって教室実施回数が異なるので、会費も異なる。
- ・教室の内容により会費を変えている。最低 5,000 円でないと、クラブ運営が成り立たなくなる。また、プログラムの内容により、会費を上げても会員は減らない。
- ・成人の教室の前に、子供の教室を実施したら、世代間交流が出来る？
- ・バスケットで、トップチームをつくりたい。
- ・会費設定は、地域・環境により異なる。
- ・高齢者対象にウォーキング教室。
- ・高齢者対象の教室と、こども対象の教室を同時に開催する（ねらいは、交流）
- ・交流大会などでネットワークを広げ、会員数拡大につなげる。

6班 進行 NPO 法人さいたまスポーツクラブ
発表者 NPO 法人さいたまスポーツクラブ

真貝 真佐子
真貝 真佐子

蓮田市	ハッスルはすだ総合型地域スポーツクラブ	富田 康夫
川口市	リリー・アスレチック・クラブ	長谷川 哲夫
杉戸町	杉戸町総合型地域スポーツクラブ「すぎスポ」	大島 齊礼
幸手市	クラブ幸手	中村 和人
川越市	芳野スポーツクラブ	大室 俊夫
本庄市	NPO 法人神流川スポーツクラブ	小林 有希

1、場所の確保

- ・学校、公民館などは既存団体が予約しており新規に予約することが難しい。

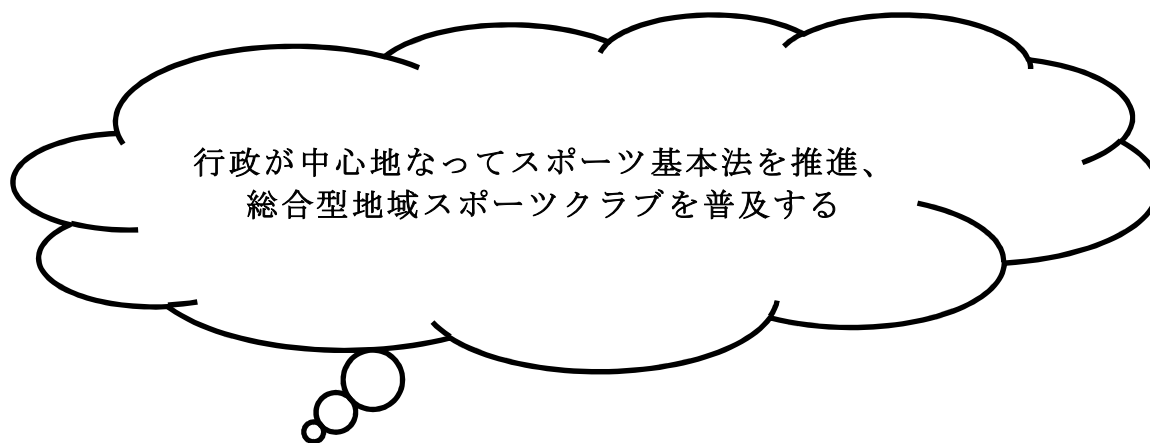
2、会員の確保

- ・既存団体（市町村体協の加盟団体、スポーツ少年団など）会員確保について、誤解を受け警戒される。

3、スタッフの確保

4、指導者の確保

5、参加者の少ないイベントをどうするか



- ・総合型の会議に行政が参加。
- ・メディアの露出を増やす。
- ・行政にも現場を知ってもらおう。トップダウンで、総合型を推進する。
- ・既存団体との、協力関係を図る。

7班 進行 クラブ幸手
 発表者 NPO 法人浦和スポーツクラブ

栗田 勇夫
 伊藤 謙

草加市	総合型地域スポーツクラブすばえもん	中澤 中枝
川口市	リリー・アスレチック・クラブ	武内 豊
川口市	NPO 法人スポーツ・サンクチュアリ・川口	渡部 雄治
上尾市	NPO 法人アイウィルススポーツクラブ	早坂 賢吾(欠席)
川越市	芳野スポーツクラブ	金子 次郎
川口市	NPO 法人フェアリースポーツクラブ	長岡 修(欠席)
さいたま市	NPO 法人浦和スポーツクラブ	伊藤 謙

1、クラブ自己紹介

- ・NPO 法人スポーツ・サンクチュアリ・川口→→大人を対象にした教室小学生を対象にした教室

会費 2,500 円種目エアロビクスなど。文部科学省委託事業「地域スポーツ指導者育成事業」受託

- ・総合型地域スポーツクラブすばえもん→→種目男女新体操を中心に小学生～高校生、大人のクラブ員約 230 人で活動。

- ・芳野スポーツクラブ→→自治会から立ち上げたクラブ、自治会会員が会員になっている。市から

年 15 万円の助成金がある。年単位で運営、今年度はフラダンス、ゴルフ教室ハイキングを年 6 回企画した 20 名から 30 名の参加、スキー教室は 110 名、ゲートボール大会など実施。教室場所の確保、運営資金が問題。

- ・クラブ幸手→→コミュニティクラブとして事業 25 実施、はじめ 10 回を教室としその後、教室を継続させるか決める。体育指導員が各地区で 2～3 名関わりマネジメントをする。学校開放を利用している。会員 350 名。

2、活動場所について

- ・既存の団体が利用している場合葉書の確保ができない。
- ・芳野スポーツ、北地域モデルになっているので市は協力的
- ・小中学生の施設や、利用の仕方を工夫し工面している

3、その他

- ・行政と協働して活動に協力してもらうか
- ・クラブのイベントなど、回覧板で交渉する
- ・学校開放など、教育機関とも協力していく

8班 進行 NPO 法人浦和スポーツクラブ
発表者 NPO 法人浦和スポーツクラブ

小野崎 研郎
小野崎 研郎

川口市	川口戸塚総合型地域スポーツクラブ「どリーむらいふ」	山崎 文義
熊谷市	ピースふあいぶるクラブ	近藤 富男
杉戸町	杉戸町総合型地域スポーツクラブ「すぎスポ」	大島 征子
坂戸市	北坂戸総合型地域スポーツクラブ「ウエル北坂戸」	工藤 新太郎
本庄市	NPO 法人神流川スポーツクラブ	清水 隆二
さいたま市	NPO法人さいたまスポーツクラブ	横田 英俊
三郷市	ふくじゅ草総合型スポーツクラブ	中原 正典

1、スタッフの確保

- ・ イベントで集まった人の中からボランティアをお願いして参加してもらう
- ・ 母親達が、運営に参画
- ・ 部門ごとに母親などを組織化し、事務局にも参加してもらう
- ・ 大学生も活動に参加
- ・ 各プログラムの中で、スタッフ（サブマネ）を決めた 1,000/回の謝金

2、お金、節約

- ・ 現場は、指導者に任せる
- ・ 毎月企画会議をする
- ・ 事業計画など話し合う
- ・ しっかりとした報酬を支払う
- ・ 若者に、企画、事業実施を委ねる

3、施設〈事務所〉

- ・ 行政、学校の理解が必要・・・複数の団体が共同でつかう
- ・ 行政、学校、クラブの信頼関係をどう作るか？・・・課題